

洋書輸入協会会報

VOL. 9
NO. 1

(通巻93号) 昭和50年1月

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

昭和50年元旦

理事長 飯泉新吾



新しい年を迎えて

一條元美

インフレーション、マーケットの相対的・絶対的縮小ないしは伸びなやみ、金融逼迫、労働条件の諸問題、こういう要素が相互に作用しあい、しかも混乱のうちにある世界経済と密接に関連しあって、われわれを苦しめた1974年がやっと終り、1975年が明けました。例年のように「おめでとう」と言いかわしながら新しい年を迎えましたが、われわれの業界の誰も晴れ晴れとした顔をしていないように見えます。「どうなるのだろう」、「どうしたらいいのだろう

」という声がきかれるだけです。

企業にとって致命的なコスト・アップとマーケットの相対的・絶対的縮小ないしは伸びなやみという悪条件は今年もつづくとは考えられません。コスト・アップの主要原因であるインフレについて、政府は3月末には前年同月比15パーセントの消費者物価上昇でおさえることを目標にしていますが、これがそのまま実現できるとは政府当局でさえ考えていないでしょう。マーケットの問題についても

新年挨拶 理事長 飯泉新吾	1
新しい年を迎えて 一條元美	1
ロンドンの印象 鈴木陽二	3
通関委員会だより	4

外国出版社の紹介 No. 34 (Scott, Foresman & Co.)	4
Book Review No. 21	5
海外ニュース	6
ニュース	6

通関統計	6
新入会員のお知らせ	6
事務所移転のお知らせ	6
総代理店ご案内	7
広告 (Reclam)	8

楽観できないようです。総需要抑制政策がつづきますから、国庫から支出される図書の購入費の増加が期待できない上、国立大学の新設が認められそうではない（12月5日付け、12月12日付け「読売」朝刊、12月20日付け「日経」朝刊）のですから、事態はもっと深刻になるだろうと思われますし、一般の会社では不況の継続による経費節約から研究用図書の購入はいっそうへらされるかもしれません。インフレに苦しんでいる国民はいわば手から口への生活にもどつつあるわけで、一般に個人消費の抑制傾向が強まっている現状では、洋書や外国雑誌もその例外とはなりえないでしょう。

たったひとつの朗報として、政府が「私立大学経費の半額国庫補助三カ年計画」に50年度から乗りだすという報道（12月16日付け「読売」朝刊、ただし、12月23日付け「毎日」朝刊も参照のこと）がありますが、総支出中人件費が80パーセントという私立大学さえある（75.5パーセントの早大の場合については、12月9日付け「日経」朝刊を参照のこと）現状では、いわば焼石に水で、これが直ちに図書購入費の増額に結びつくことを期待することはむずかしいでしょう。金融についてはやや緩和されそうだと噂されていますし、公定歩合の引下げも云々されていますが、インフレとマーケットの縮小という条件に変化のない限り、企業の経営が楽になると考えるひとは誰もいないでしょう。物価の上昇にともない労働者の実質賃金が低下するという傾向がつづく限り、労働組合の賃金要求が大きく強くなるのは当然なことであり、われわれ経営者は従業員の生活を守り、また企業を守るという問題で今年もまた昨年と同じようにむずかしい局面に直面せざるをえないと考えられます。こうして考えてくると、洋書業界は昨今と同じく今年もまた苦しい条件のもとにおかれているといえましょう。

しかし、こういう状況はわが業界のあり方を考え、体質を反省する上でまたとないチャンスであろうとも考えられます。高度経済成長政策にわれわれも浮かれて、洋書屋の本質を考えることなく、あるべき姿を見失ったという点は

なかったでしょうか。経済の高度成長、企業の研究投資の高度成長、大学の数の高度成長、個人消費の高度成長は、われわれの企業活動の量的高度成長——質的發展がなかったとはいませんが——をもたらし、われわれはあまりにも長くその中に溺れきっていたとはいえないでしょうか。高度成長のなかをぐるぐる回っているうちに大きくなってしまった雪達磨がとけていきつつあるのが、いまの業界の姿ではないかと考えます。社会環境・経済環境が本質的に変化したいま、業界がまた個々の企業が従来通りのあり方をつづけることは許されない、ということには異論がないでしょう。そのためにはこれまでの業界・企業についての根本的な反省が必要だろうと思います。そのためには、洋書輸入協会が会員のあらゆる知恵を集中し、業界の防衛、企業の防衛——業界エゴ・企業エゴとはまったく質的に異なる——にあたることが要請されます。

ここでは各論にはいるだけのスペースもありませんので、反省すべき問題点を若干指摘するにとどめたいと思います。第一に、やはり洋書輸入業者とは何かという根本的な問題を問返さなければならないでしょう。とくに情報化社会のなかでのその役割をきちんと把握することは何よりも大切でしょう。第二に量的拡大を追ってきた業界が体質的にどういう状態になっているかについての認識。第三に顧客と業界との関係についての客観的な認識。とくに顧客の側で何が要求され、何が考えられているか、それに対して業界がどう対応してきたかについて考えるべきでしょう。第四に、マーケットの問題に対してわれわれが追ってきた態度の問題。長い間眼前に与えられたマーケットを追うことのみに汲汲として、百年の大計を考えることを怠ってきたのではないかという問題です。

新年早々お目でたい話ではありませんが、こんごの業界のことを考え、個々の企業のことを考える時、これらの問題をさけて通ることはできないことです。協会のなかでも十分に話しあい、皆の力を集めて、難局をのりきりたいものです。（極東書店）

ロンドンの印象

飛行機がゆっくりと高度を下げるにつれて、未だ明け切らぬロンドンの市街が機窓から眺められた。かれこれ6時半だというのに、街並は雨もよいの天気の中、莫として、黒ずんだ陰影であった。

十月初旬といえば、日本は一年中で最も快適なシーズンであるが、我々は、ヒースロー空港を出たとたん、まずその寒さに驚かされた。緯度から見ると北樺太やカムチャツカ半島南端に位置しているのを考えれば、当然のことなのだが、改めて、日本が温・熱帯に位置していることが認識された。

ロンドン郊外への往復は、必ず美しい緑の木立と野原を通り抜ける。ロンドンは、豊かな緑地帯に囲まれた都市である。東京を中心とする首都圏にもグリーン・ベルト地帯はあるが、際限もなく住宅に浸蝕され続けているのに反し、ロンドンのそれは相当徹底しているように見受けられた。

ロンドン市の真北、ハートフォードシャーのハドレー・ウッドへは丘陵を越えて行くのだが、ロンドン市街を出はざれると直ぐに、広大な緑の原野を見ることが出来る。あちこちと森を配した草原がなだらかな起伏を作って、中秋のあわい陽光の中にやわらかに広がっていた。この緑地帯の所々に、郊外の高級住宅地や美しい田舎町がひっそりとしたたたずまいを見せていた。私がその辺を訪れたのは土曜日であり、休日にもかかわらず人影もなく、清潔で清楚な町筋と緑野であった。

ハローより列車に乗ったが、行き先の案内掲示もなく駅名の表示さえ殆んどないホームに立っていると、間もなく、青い、そして、おそろしく古びけた列車が入って来た。車輻は、両側に昇降口の付いたコンパートメント式のものであり、ドアや窓の具合は大変悪く、シートは破れて傷み果てた車室であった。

地下鉄に乗っても感じることであるが、車輻はかなり汚なく、うす汚れている。まるで、使えるうちは使おうとしているようである。おそらく日本ならば、とうの昔に新しいものに変えてしまっているだろう。こういう更新の思想について、私は強い感銘を受けた。日本では、能率的で、便利で、快適なものを絶えず追求め、更新して行くのが常態である。このような国民性の淵源を尋ねることは難しいが、長い歴史の中で、変化して止まない自然を背景として真の意味で耐久消費材を持たなかった日本人の栄枯盛衰観のようなものが、一つにはあるのではなからうか。建造物にしても、数百年の使用に耐えるロンドンの建物に比べ

丸 善 鈴 木 陽 二

て日本の木造建築は耐久性がなく、また、更新も安価である。そういう長いことつちかわれた日常生活様式を基盤にした発想法が根強く左右しているのではないか。

こういったことはいいか悪いかわからない。しかし、きびしい自然との対決の中で自然の利用法を体得して来た彼らに比べて、自然に恵まれ、自然の自己回復作用に甘えて来た日本人が、以前と比べものにならない程の資源需要の中で発想の転換を計れずに浪費ともいえる消費を続けていることは反省すべきである。明治に、西洋技術を導入するにあたって和魂洋才が強調されたが、実は、技術もある自然環境より生じた思想の上に立って生み出されたものであることに気付かなかったことは不幸であった。いや、未だ不幸であったという結論は早すぎるだろうが、不幸にならないようにしたいものだ、破れたシートに坐り、車窓を流れる草原をボンヤリ見ながら考えたものだった。

時間が余り取れぬため、訪問した出版社の数はそれ程多くはなかった。最近、出版社の一般的傾向として郊外に大きなオフィスや倉庫を建てて移転している。しかし、相変わらずロンドンの市街地に居続けている出版社も多い。近代的ビルの比較的多いザ・シティにあるABPなどは高層ビルであるが、アーノルドなどは、以前住宅であったものをそのままオフィスに使用しており、まさに英国を感じさせるクラシックで荘重な建物であった。マクミランもザ・シティにあるが、細い路地をはさんで古い煉瓦造りの建物と近代的ビルの両方を使っていた。そのような古い建物をオフィスとして使用するのはいくら不便に違いないが、そこに働く人々の環境に対するいら立ちは感じられない。束の間の訪問者がうかがいがい知れぬことかも知れないが、彼らは充分に楽しく、熱心に生活をエンジョイし、仕事に誇りを持っているようであった。

パターワースの郊外移転に見られた大量退職は、日本では殆んど考えられない現象であろうが、ある面では、人々のロンドンに対する愛着を物語るもので、確かに、そのような離れ難き良さをロンドンは持っている。パブの発達に見られるように、ロンドンは大都市とはいえ、未だコミュニティの性格を持っているのだと思う。

初めての海外旅行で得たことは沢山あり、特に輸入協会の人間関係の中で体験したものは貴重であった。団体でまわった楽しい訪問について報告すべきであったと思うが、ロンドンは最初の地で、極く短い団体行動でもあったので、私的印象の断片にした。

通関委員会だより

11月14日(木)に催された東京外郵通関協議会の「T A C T及び成田新空港見学会」に通関委員会より6名参加いたしました。研修行事の一つとして、協議会会員の希望が多かったことから昨年に引続き実施されたものです。

市川市厚木に設置された東京エアカーゴ・シティ・ターミナル(T A C T)は成田新空港の開港に備えて建設されたもので、将来は東京地域発着の輸入航空貨物の80%と輸出航空貨物の90%が通関されることとなりますが、現在でも羽田空港では捌ききれぬほど貨物が増加しているため、その大半はT A C Tにて通関されております。約86,200㎡の用地に税関庁舎、輸出上屋棟、輸入上屋棟、別棟、厚生棟、整備工場、操車場、駐車場、グリーンベルトなど近代的設備が出来て操業しています。上屋棟内の貨物の運搬は殆んどオートメ化されており、無人カー、無人クレーンなどが威力を発揮していました。なお設備計画は、昭和55年

をめどに4期にわけて完成することになっています。成田新空港は第1期工事(全体の約半分)がほぼ完成して開港を待つばかりとなっております。広大な地域に旅客ターミナルビル、貨物取扱地区の各施設、滑走路、整備工場、通信設備、地域冷暖房設備、周辺道路、駐車場などが建設されておりました。詳細については洋書輸入協会会報Vol. 7 No. 12に報告されているので省略させていただきますが、長さ4000m、幅60m、コンクリートの厚さ約1.5mのA滑走路をはじめ各施設は、年間数百万人に及ぶであろうと思われる旅客と年間30%以上増加しつつある貨物を円滑に捌くことでしょう。

T A C Tと成田空港間の貨物の輸送は、東関東自動車道路及び京葉道路を利用することで当面解決出来ると思いますが、都心と成田空港間の連絡を道路に頼ることは、最近の道路混雑状況から難しく、高速鉄道あるいは航空機の利用などで解決せねばならぬ問題であると感じられました。

(M.S.記)

外国出版社の紹介 No. 34

SCOTT, FORESMAN AND COMPANY, Glenview Ill. U. S. A.

米国のIllinois州の大都市と言えば、当然Chicagoを誰でも思い出す。そのChicagoの近くにGlenviewという町がある。米国の主要な商業出版社が、ほとんど例外なくNew Yorkに本拠を置いているのに対し、米国最大の教科書出版社Scott, Foresmanは、このGlenviewに偉容を誇っている。

Scott, Foresmanは約80年前に創業され、現在社員数約1400名を数える大出版社である。その出版内容は教科書一筋で、Competeする他社が多かれ少なかれ、教科書外の出版も手がけているのに対し、特色ある存在である。日本での洋書需要は、どうしても、社会、人文、理工等の学術書が中心であるため、大出版社でありながらScott, Foresmanという社名は、案外知られていないようである。しかし、Scott, Foresmanの出版物が、そのまま我国に輸入され、そのまま利用されることが比較的小さいという事実からだけで、この出版社の我国への影

響を判断すると、大きな間違いを犯すことになる。教科書のような出版物は、生のまま教育制度の違う国で輸入利用されることは、大学の場合を除けば、まずあり得ない。その表に現れた事実からだけでもとすると影響力を評価してしまいがちだが、広く日本の教育出版を調べてみると、どっこいそうではないことがわかる。Scott, Foresmanには古くから有名な学生用辞書シリーズがある。ThorndikeとBarnhartの手になるもので、生徒のGradeに応じ、Beginning Dictionary, Intermediate Dictionary, Advanced Dictionaryとなっているが、これらの辞書と日本の英和辞典とをたんねんに照合し調べてみると、驚く程日本の辞書が、これらの辞書の影響下にあることがわかる。

Scott, Foresmanの教科書は、幼稚園から大学まで、実に幅広く出版されている。取りわけ小学校の分野では、全米で最も高いmarket shareを現在もっているという。我国でも大学のテキストで、近年この出版社のものが使われるケースがふえつつある。

<SSD・Nomura>

Philip Wallis

"At the Sign of the Ship". Notes on the House of Longman. 1724-1974. Foreword by Elizabeth Longman. Longman Group Ltd. 79 pp. 1974.

Printed for private circulation.

この本は Longman 社の創業 250 周年を記念して、本来はロングマン社およびロングマン家のひとびとのために書かれたものである。ロングマンの現在のマークも帆船を図案化したものであるが、創業以来船のマークを使ってきたので、こういうタイトルがついたのである。

第一章 Historical Background は、この本が必然的に出版業の歴史的な発展に関連せざるをえないので、読者に出版業の変遷・発達についての知識を与えようという目的で書かれている。印刷・出版・販売が同一人によっておこなわれていた16,7世紀からの変遷について一般的に述べられているほか、ロングマンの組織の発展についても簡単に説明されている。

第二章 The Longman Family ではロングマン家のひとびとが7世代にわたって紹介されている。Thomas Longman (1699 - 1755) が17歳で書籍業者の John Osborn のところに徒弟としてはいったのが1716年のことであり、ここからロングマン家と出版業とのつながりができる。彼は1724年に徒弟奉公を終えたが、たまたま同じ年のはじめに船とブラック・スワンのマークで書籍業を営んでいた William Taylor が亡くなり、その遺言執行人がジョン・オスボーンであったということから、亡くなった父親からかなりの遺産をひきついでいたトマスがテイラーの仕事を買いとることになった。こうしてロングマンと船のマークとが結びつくこととなったのである。トマスは師匠の娘である Mary と結婚し、義弟にあたる父親と同名の John Osborn がトマスと共同して仕事をする事になり、1725年にはこの出版業者のインプリントは J. Osborn and T. Longman となった。こういうふうにはひとりひとりについて詳しく述べられているが、面白い話——とくに著者との関係など——がいろいろでてくる。Macaulay の History of England の最初の2巻が1848年11月に出版されたが、3,000部が10日間で売切れ、12月に急いで3,000部を追加したが、出

るとすぐにほとんど売切れてしまったこと、1855年12月に3、4巻が出版されたあと支払われた印税が2万ポンドあったことなどがそれである。それがこの頃に既にこれほど大きなマーケットが存在していたこと、またそれに対応できる生産力のあったことはやはり当時におけるイギリスの資本主義発展の高さを示すものであろう。「共産党宣言」が発表され、2月、3月とヨーロッパには革命が続いたこの年、わが国では將軍家慶のもとで周辺に出没する外国船に大騒ぎをしていたのである。

第二章はいわば「船のブリッジにいた船長たち」についての章であったが、第三章 The 'Long Firm' は「デッキやエンジン・ルームで働いていたクルー」についての章である。この章の名前は19世紀のはじめにロングマンのインプリントが 'Longman, Hurst, Rees, Orme, Brown and Green' という長い名前だったことからきている。これらのパートナーについての説明があるのはもちろんである。われわれにとっておなじみであった Longmans, Green という社名は1889年から1969年までつづいていたが、なぜこういう社名だったかもわかる。'School Traveller' として1884年に入社した J. W. Allen によって教科書出版の礎石が築かれたが、それが大英帝国の栄光とともに発展していったこともわかるし、また、米国進出の経過についてもふれられている。しかし、新たに採用した者の数、はじめての婦人の採用(1910年)、サラリー、労働時間、休暇のことなども書かれていてなかなか興味深い章である。

第四章 The Trade in Books はそれぞれの時代の好み、流行、教育、経済などの諸条件によってロングマンの出版物がどんな傾向をとったかについて簡単にふれているが、立ちいって紹介するスペースがない。さいごに詳細な固有名詞のインデックスが付けられている。

著者は1929年にロングマンにはいったひとりで、こういう本を書くのにこれ以上の人はいないとのことである。

この本の性格からであろうが、一般的な歴史の動き、発展にはとくにふれることなく、ロングマンの歴史が書かれている。産業革命、市民革命、帝国主義、二度の世界大戦等々、こういう歴史のなかにこそ、ロングマンの出版の歴史もあったのである。こういう時代の背景を考えながら、この本を読めば、それなりに興味をそそるものがある。(1)

海外ニュース

『ファイドン・プレスがエルゼビアに』

ロンドンの美術出版社として知られる Phaidon Press はこのほど、オランダの Elsevier グループに譲渡された。この譲渡の契約は、Phaidon Press の親会社である Praeger Publishers Inc. (この Praeger 社自体は Encyclopaedia Britannica 社の子会社である) とアムステルダムの N. Y. Vitgerversmaatschappij Elsevier との間で成立した。

Phaidon Press は昨年創立50周年を祝ったばかりだが、同社が美術書の普及に果たした役割は、Penguin が文学書の分野で果たした役割と比較されるほど大きい。同社は当初ウィーンで Dr. Bela Horovitz が設立、1938 年ドイツ軍のオーストリア進駐とともにロンドンに移った。

Dr. Horovitz は 1955 年に死去、1967 年に彼の後継者は同社をニューヨークの Praeger 社に売り渡した。

Elsevier グループに入った同社は、今後さらに出版活動を拡大し、英語の権威ある図解の多いレファレンス・ブックなどに進出するとのことである。

(The Bookseller 11月23日号より)

——紀伊國屋書店提供——

ニュース

☆米国 Prentice-Hall International, Inc. の President,

Mr. Leo N. Albert 12月上旬来日。

☆英国 Pharos Press の Chief Executive, Mr. Leon

Morelli 12月中旬来日。

通関統計

外国貿易概況 (大蔵省関税局編、日本関税協会発行)

1974年9月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和49年9月 \$8,068,000 1月以降累計 \$61,482,000

昭和48年9月 \$4,815,000 “ \$49,459,000

(註) この統計は、C I F 価格で10万円以下の少額貨物は含まれない。

新入会員のお知らせ

今回下記のかたが会員として入会されましたので、お手許の会員名簿にご記入願います。

賛助会員

CBS インターナショナル パブリッシング

代表者 ウィリアム A. フューラン

〒104 東京都中央区銀座 1-16-1 東貨ビル

☎ (03) 567 - 9 6 6 3

事務所移転ご案内

今般次の通知がありましたのでお手許の会員名簿の訂正をお願い致します。

㈱ 東亜ブック

〒171 東京都豊島区池袋 4-1744

☎ (03) 985 - 4 7 0 1 (代)

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。

お手許の Agent List にご記入願います。

(株) 極 東 書 店

☎ 265 - 7531

Verlag Detlev Auvermann, Glashütten im Taunus

Kongress-Protokolle der Sozialistischen Arbeiter-
Internationale. Nachdruck (Hamburg, Marseille,
Brüssel, Wien, Paris, 1923-1933). Vom Gründ-
ungskongress 1923 bis Vierter Kongress 1931 mit
Anhänge. Insgesamt 2620 S. 4 Bde. in 6. 1974

¥75,000

Kongress-Protokolle der Zweiten Internationale.
Sammelbände der unter verschiedenen Namen
tagenden Kongresse der Zweiten Internationale.
1. Kongress-11-Kongress (1889-1920). Nachdruck
in 3 Bdn. 1974

¥37,500

Nachrichten der Internationalen Arbeitsgemein-
schaft Sozialistischer Parteien (I. A. S. P.). Organ
der II. Internationale. Hrsg. von Fr. Adler.
Deutsche, Englische, Französische Ausgabe.
Nachdruck (Wien 1921-1925). 240 S. 1973

¥11,250

Protokoll der Internationalen Sozialistischen Kon-
ferenz in Wien vom 22. bis 27. Februar 1921.
Kongress-Protokoll der II. Internationale.
Nachdruck (Wien 1921). 135 S. 1974

¥4,500

Protokoll der Internationalen Konferenz der drei
Internationalen Exekutivkomitees in Berlin vom
2. bis 5. April 1922. Hrsg. vom Neuerkomitee
der Konferenz. Nachdruck (Wien 1922). In Vorb.

¥2,700

Bulletin of the International Institute of Social
History, Amsterdam. Bd. 1-10 (alles Erschienenene).
Leiden 1937-1955. Nachdruck in 9 Bdn. 1974

¥127,500

Zentralantiquariat der DDR, Leipzig

Die Verbrüderung. Correspondenzblatt aller
deutschen Arbeiter. Jg. 1-3. Nachdruck (Leipzig
1848-1850). Mit einer Einleitung von R. Weber.
In 2 Bdn. In Vorb.

¥28,500

Arbeiterpolitik. Wochenschrift für wissenschaft-
lichen Sozialismus. Jg. 1-4 (alles Erschienenene).
Hrsg. von J. Knief. Nachdruck (Bremen 1916-
1919). In 3 Bdn. In Vorb.

¥58,500

Wirth, Max, Geschichte der Handelskrisen.
Nachdruck (4. Aufl. 1890). 706 S. In Vorb.

¥16,000

Verlag die Wirtschaft, Berlin

Lexikon der Wirtschaft: Band Rechnungsführung
und Statistik. Hrsg. von A. Donda. In Vorb.

¥4,350

(株) 丸

善

☎ 272 - 7211

Makamura, R. M. (ed.) — Concepts and Clinical
Laboratory Methods in Immunopathology. '74.
(Little, Brown) ca. ¥12,020

ORCHIDACEAE. by P. Francis Hunt drawn by Mary
Grieson. Limited Edition 600 copies. '74. 224 p.
40 plates. (The Burton Pr.) ¥146,000

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

☎ 262 - 5278

The Mitchell Beazley Group, London

All Publications

Academic Media (Marquis Who's Who Inc.)

All Publications

ストックリスト業務開始のお知らせ

Heinemann Educational Books, London

Harper & Row, Publishers, Inc., New York

Incl.: Basic Books, Inc.

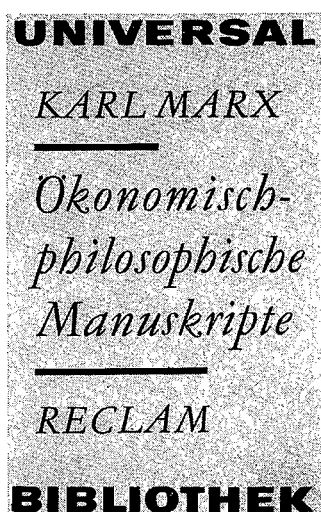
Quadrangle/The New York Times Book Co.

RECLAM

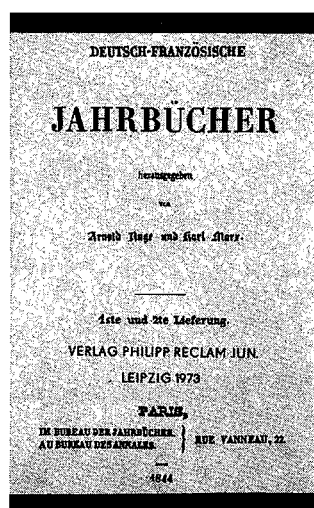
The Comprehensive Pocket-Book-Series

RECLAM Pocket Book Series (In German) are published in Leipzig – the book town with a long tradition – for more than hundred years. RECLAM Pocket Book Series now show the features of a modern socialist pocket book library.

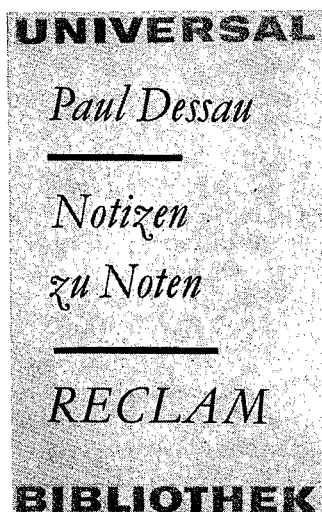
RECLAM Pocket Book Series mean a great variety of subjects, have an attractive get-up and are offered at reasonable prices. RECLAM Pocket Book Series are most interesting and will captivate the readers attention.



Volume 448
¥370



Volume 542
¥370



Volume 571
¥300

Please order our catalogue „1974“.

Verlag Philipp Reclam jun.DDR - 701 Leipzig

昭和50年1月 通巻第93号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル 302号室 ☎ 271-6901
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329